

シリーズ
6次産業化
ファンドを活用した

A・FIVE（株式会社農林漁業成長産業化支援機構）の出資を受けて各地に設立されたサブファンドの支援により、昨年は、新しい形の流通に取り組む事業体「株式会社アグリゲート東北」や、JA全農と外食企業の共同出資による新会社「株式会社J・ACEひびき」などが設立された。今回は6次産業化事業体として新たな歩みを始めた、この2事業者の取組を紹介する。



アグリゲート東北の協力生産者のひとつである「山形の農家の未来を考える協議会」は20名ほどの若手生産者団体。農産物の高品質化に取り組みながら、首都圏や海外の催事に参加して新たな販路開拓に取り組んでいる。



2014年10月、東北6次産業化ブリッジファンドなどの出資により設立された「(株)アグリゲート東北」が目指すのは、農業と青果流通の新しい形。流通業者と生産者が、何を作り、どのように売るのかを話し合い、消費者と話す機会を作り、営業活動を行っていく。

JA・6次化ファンド（農林水産業投資事業有限責任組合）を活用し、2014年4月に設立されたのが、JA全農と、焼き鳥店など外食店舗を運営する（株）ひびきの合弁会社「(株)J・ACEひびき」。新会社は、

全農グループの強みである産直原料の安定供給体制と、ひびきの店舗業態開発ノウハウ等を活用して、国産豚・国産鶏の販売力を強化していく。

今後、アグリゲート東北は、国内の流通・パイプを強くしながら、付加価値を高めた農産物の海外輸出を図る。

J・ACEひびきも、日本産の豚肉と鶏肉の輸出拡大を狙い、2015年秋に東南アジアに外食店の出店を計画し、2020年頃までに10店の出店を目指す。ファンドを利用した6次産業化はローカルからグローバルへと新たな展開を見せている。

2014年11月には(株)J-ACEひびきの1号店となる「イーハートヴォ料理 銀河浪漫」がオープン。岩手県産の銘柄豚をメイン食材に、岩手の郷土料理を提供。国産農畜産物の「高い品質」「おいしさ」「安全性」をアピールしている。

